



発行所 十勝毎日新聞社 千080 帯広市東1条南8丁目 電話=編集@2121、広告@2323、総務・販売@2222 ©十勝毎日新聞社 1988

迫られる再構築

宇宙基地誘致

「HOPE(ホープ)の着陸場としては難しいが、二十世紀の有人スペースプレーン時代を目指すなら支援したい。園山重道宇宙開発事業団副理事長は十一日、宇宙基地誘致地を視察後こう発言した。辛口のことを言った後のリップサービスともとれる。

も二十世紀型の有人スペースプレーン時代に対応した航空宇宙産業基地の誘致。事業団のHOPEの帰還場所として否定的見解が出されたといっても、文部省宇宙科学研究所では無人シャトル型実験機、HIMES(ハイメス)全長十三・六メートル、科学技

今後の展望

「ハイメスは十勝で... 六十二年八月に発足した十勝航空宇宙産業基地構想研究会(会長・田本憲彦帯広市長)の運動の目標はあくまで

術航空宇宙技術研究所では、宇宙スペースプレーン時代に対応した飛行機のように離発着し、宇宙でできるのは十勝しかない。宇宙スペースプレーンを研究する。十勝の宇宙基地構想は最初から広大な土地が必要で、そこからこの二十世紀の有人型宇宙スペースプレーンが目標である。この点から研究者からは「日本

有人機時代目標に

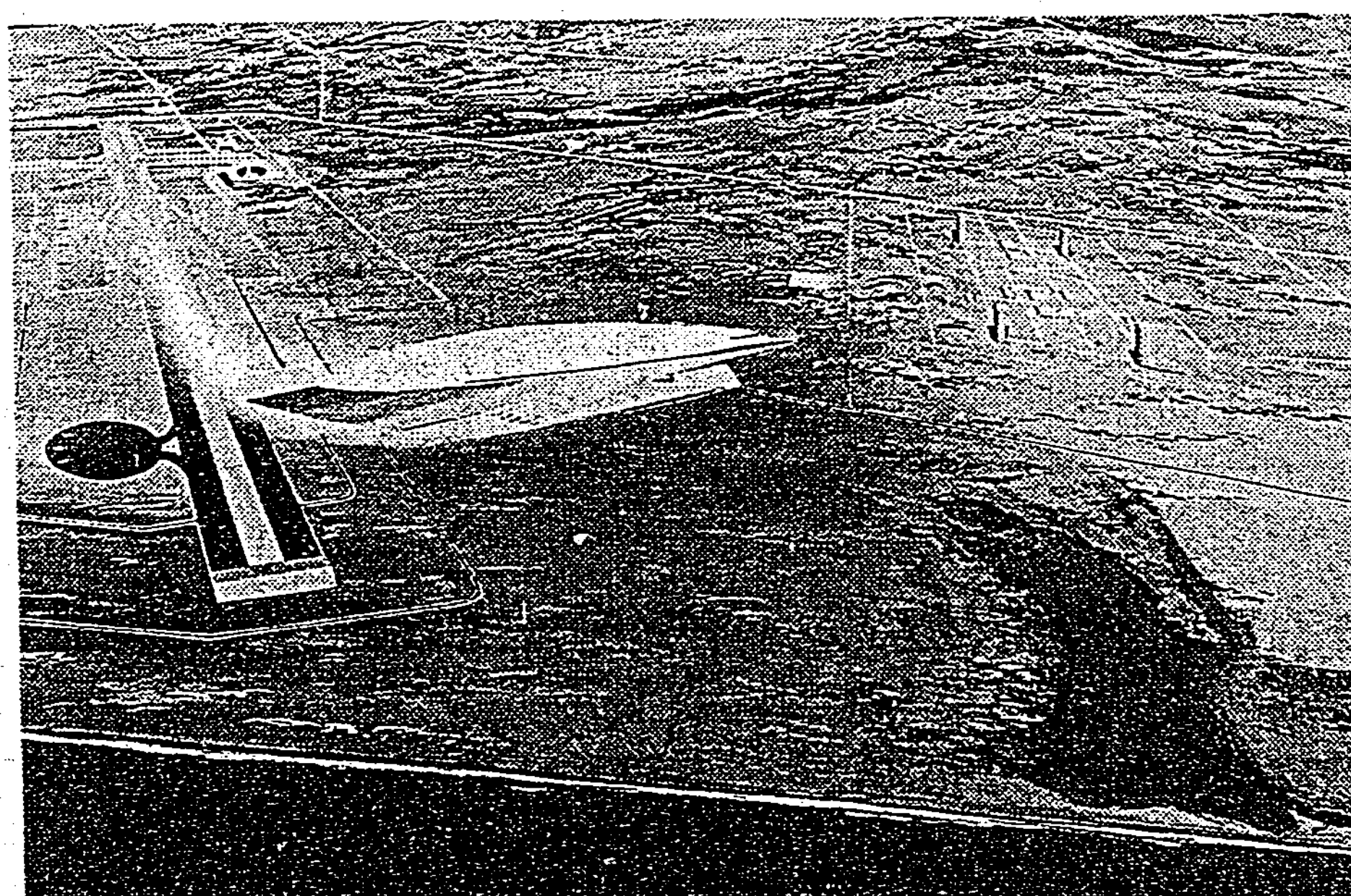
情熱と息長い運動必要

< 下 >

り、アメリカの宇宙基地を視察したが、昨年一年かけて議論。道は小型ロケットは現在四月に再度二十五年開催目標を確認したものの、すでに四月に決まっていた。HOPEがすべてではない、息に時間的に二十五年開催は不可能といえる。今回の園山発の長い取り組みになるのは最初から分かっている」といふ。言を分析し、いつ、どのように根拠もその辺にある。つに行うのか早急に検討する。つまり長期的に宇宙基地を目指す必要がある。

すとい基本は今回の園山副理事長の発言ひとつで崩れ去ったわけではない。ただ、当面の課題として、宇宙基地誘致のステップには影響が予想される。宇宙基地はいつ開催? まずは六十五年開催を目指すスペースプレーン。宇宙の見本市や国際会議等が主な内容

また、道が大手企業や十勝の市町村を入れた第三セクター方式で、六十五年を目標に、構想を示した大樹町からの少重力量について、園山副理事長が「需要からみて難しい」との見解を示した。このことの見解を示した。いまでも無理。今までのハシヤギすぎを大人からしかれた。また、地に足のついた取り



道が描いたスペースプレーン発着予想図

今後を努力していかねば必ず将来何かをつかめるのでは」と一致してゐる。

18日に構想研

十八日夕には広尾で十勝航空宇宙産業基地構想研究会の企画委員会(委員長・福原勉大樹町長)を開き、今回の経過報告と今後の取り組みを協議する予定だ。

有人スペースプレーンを研究している第一人者・山中龍夫科学技術庁航空宇宙技術研究所宇宙研究グループ総合研究官は「一時的な行動ではなくとも宇宙を志向する精神構造とはいえない。十勝は持続性を持つ宇宙を志向するその中核になってほしい」とアトドバイスしている。最初の試験で即、腰くだけでは全国の実績者となる。今こそ地に足のついた取り組みと、持続力のある情熱が求められているのではないかと。(おわり)

(小野寺 裕記者)